

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年9月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200181		
法人名	株式会社 北陸福祉会		
事業所名	はびねすグループホームいずみ		
所在地	富山県高岡市泉町9番35号		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年10月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お客様個人の意思を尊重し心身の状態を把握することで、お一人おひとりに合ったサービスの提供ができるよう、職員一同心掛けています。誕生日会などの室内行事の他、お花見や七夕祭りなど季節毎の外出や外食など、様々な行事を通してお客様同士や職員との交流を深め、信頼関係が築けるように努めています。また、認知症予防改善のため「くもん学習療法」を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の持っている能力を見極めながら、笑顔で接することを心がけ、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごして頂けるよう支援している。職員のスキルアップに努め、職員がやりがいを持って働ける職場環境づくりに取り組んでいる。また、利用者、家族が安心して過ごせるように医療連携を確立し、家族へは利用者の近況を毎月報告しており、事業所と利用者、家族との信頼関係を築くよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

はびねすグループホームいずみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らしていただく為に、グループホームの役割、位置づけに応じた理念を立てて支援している。	管理者と職員は日常業務の中で、理念を共有できるように、ミーティングの時などで確認している。利用者一人ひとりに寄り添い、各自の能力を見極めながら、笑顔で接しケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物に出かけ、地域の方と積極的に挨拶や会話を交わしている。	地域との関わりが大切と考え、散歩や買い物に出かけた時、近隣の人たちと挨拶を交わしている。散歩のときに、近くの保育園に立ち寄るなど、日常的に交流している。	地域の情報をもっと集め、催事などに積極的に参加できるように働き掛けることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に地域包括支援センターからの依頼により、家族向けの介護教室で「認知症高齢者の接し方」について話をさせていただいたことがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様のご家族、地域住民代表、地域包括支援センターの職員、グループホームの運営者、職員により、現状報告、参加者からの意見や要望を話し合い、サービスの向上に反映させるよう努めている。	運営推進会議には、区長や民生委員、家族代表などの参加を得て、2ヶ月ごとに開かれており、事業所の現状やケアの様子などを報告している。	会議には多くの職員や家族の参加を呼びかけ、参加委員から地域の情報や高齢者の動向などを積極的に聞き取り、情報を共有して運営に活かすことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を高岡市高齢介護課の担当者に提出し、意見のやり取りを行なっている。	市の担当者には、事業所の状況やケアの様子などを報告し、担当者からは各種制度の取り組みについて聞き取るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に勉強会を行なっている。また、身体拘束排除マニュアルを作成し、日々のケアを行なっている。防犯上、玄関の長時間施錠を行なっているが、お客様が外出したい時はいつでも外に出られるようにしている。	職員全員の共通認識として身体拘束をしないことを、ミーティングにおいて確認している。日常業務においても、大きな声で抑圧することのないよう、自分がされて嫌なことなどしないよう職員間で留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、職員全員で意識を共有している。また、入浴時や更衣のときなどにちょっとした傷やアザも見逃さないように確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	定期的に司法書士会から講師を招き、成年後見人制度や権利擁護について職員全員が学び、必要性があるご家族に制度について紹介できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行ない、ご家族の方にも一緒に重要事項説明書と契約書を読んでいただき、不明な点があった場合は理解して頂けるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、ご意見箱を設置している。また、ご家族が訪問された時に意見や要望を聞き、内容を業務日誌などに記録して職員全員が把握できるようにしている。	家族へは利用者の近況を毎月報告し、家族が運営推進会議の時や面会に訪れた時に、意見や要望を聞き取り信頼関係を築くよう努めている。利用者や家族からの意見や要望は、日誌に記録しておき、ミーティングのときに検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者と職員全員でミーティングを行ない意見交換や提案を聞いている。また、日頃より職員からの要望や意見が聞けるようにコミュニケーションを図っている。	職員全員の参加でミーティングが開かれており、管理者は日常業務においても何でも話せるように心がけ、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員から意見を聞いたり、勤務状況に気を配っている。また、資格取得を推奨するなど、職員がやりがいをもって働ける職場環境の整備に努めている。資格取得者には手当を支給している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会の研修会等、積極的に研修に参加させており、中堅職員は認知症実践者研修を修了している。研修に参加した職員は報告書を作成し、ミーティング時に発表している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(公社)日本認知症グループホーム協会に加盟しており、研修会等を通じて加盟事業所等との交流を行ない、勉強した内容をサービスの向上に活かしている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様が安心して暮らせるように、入居される前後にご本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯やグループホームでの生活に対する不安・要望を時間をかけて伺い、安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの情報を集めアセスメント表を作成し、それに基づき「その時」に必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様は人生の先輩であるという思いを職員全員が共有しており、お客様それぞれの得意分野で力を発揮していただき、お互いに協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月個々にお便りを作成し、献立表、行事、日常の様子をお知らせしている。また、季節ごとにホーム新聞を発行し、近況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も継続して馴染みの友人等が面会に訪れることもあり、楽しく過ごせられるように心掛けている。	友人が訪れたときは、利用者の部屋にテーブルを運び、ゆっくりくつろいでもらったり、馴染みの美容師に毎月来てもらうなど、利用者が楽しみながら大切な関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の趣味や気の合う方同士で過ごせる時間が作れるよう職員が調整役となり、お客様同士が良好な関係になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの生活が損なわれないよう、グループホームでの生活環境、支援内容などの情報提供を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様との日常会話を通して情報収集を行ない、希望や意向を把握するように努めている。また、ご家族からの意見を伺い、お客様が何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映できるよう努めている。	利用者と同じ目線でコミュニケーションを図り、希望や思いを掴むよう取り組んでいる。意思疎通が困難な利用者には、声かけしながら表情の変化を見逃さず、キャッチした情報は職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からの聞き取りを行なっている。情報は個人記録に記入し、職員全員が情報を共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日々の行動や表情等から心身の状態を感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、ケアプランに反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを行ない職員の意見も組み込んで作成している。	生活歴を把握し家族からの情報などを基に、その人らしい生活が送れるような介護計画に取り組んでいる。趣味の生け花や茶道、読書やカラオケなど日常で生き生きとされる時間作りを支援している。また状態変化があれば、現状に即して見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄等の身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動を記録している。職員は業務開始前に記録の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院の支援や、買い物を代行する等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容サービスや協力医療機関の訪問診療、近くのスーパーへ買い物に行くなど、地域の社会資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医について説明し、ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。通院は基本的にはご家族にお願いをし、無理な場合には職員が同行することもある。また、月に一度協力医療機関の訪問診療がある。	現在は利用者全員が訪問診療を受けており、かかりつけ医との連携は常に図られている。通院が必要な場合には家族の協力もお願いしながら、いつでも適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行ない、不調が見られるときは協力医療機関等の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き、ご家族や病院関係者と情報交換をしながら回復状況を知るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については利用開始時に説明を行ない、早い段階からホーム長とご家族で話し合いながら、事業所で出来ることを十分に説明している。	重度化や終末期のあり方については、入所時や状態変化時においてその都度、本人、家族に事業所の取り組みを説明している。その時々で家族の心情を汲み取りながら、出来る限りの対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに沿って訓練を行なっている。職員は普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回の避難訓練の実施や防火講習を受講している。地域との協力体制が築けるように運営推進会議を通して働きかけている。	避難訓練は定期的に行っているが、地域住民と一緒に避難訓練はまだ実施されてはいない。運営推進会議では地域住民からの要望として、災害時の避難場所としての協力を頼まれており、今後相互協力を考えている。	災害時の相互協力の道筋を構築するためにも、地域との連携が図られ、実際の避難訓練が実施されることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に職員の意識向上を図るとともに、お客様の誇りやプライバシーを損ねないよう、尊敬の念を持って接することを心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけの時には立ち位置に注意しながら、視線を合わせて会話するよう配慮している。プライバシーを損ねない対応を心がけ、「してはいけないこと、自分がされて嫌なことはしない」と、常に職員間で留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話の中から、お客様の思いや希望を聞き、その方に応じた選択方法や説明を行ない、その方の思いが出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあっても、一人ひとりの生活ペースに配慮し、その方の思いで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ着替える衣類はご本人に決めて頂き、お化粧などもご本人の意思でして頂いている。散髪などの理美容サービスの利用についてもご本人に決めて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じていただけるよう旬の食材を取り入れた献立作りを心がけ、お客様と一緒に配膳や片づけを行なっている。また、職員も一緒に会話を楽しみながら食べている。	旬の地元食材を多く取り入れた調理を心がけており、畑からの収穫や近所からの差し入れを喜び、みんなで美味しく味わっている。利用者にはテーブル拭きや配膳など出来ることをお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回日誌に記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の嗜好を把握し提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行ない、個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。自分で出来る方は声掛けをし、介助が必要な方は職員が行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、時間ごとの誘導や声掛けを行なっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を勧め排泄の自立を図っている。夜間は、おむつやパットを使うこともあるが、利用者に合わせたパット選びをするなど、不快な思いや失敗の少ない排泄支援を進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で牛乳やヨーグルト、食物繊維が豊富な食材を使うことで、極力薬に頼らず、自然な形で排便を促している。お客様によっては主治医の指示により薬を飲んでいる方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようにしている。入浴拒否や体調により入浴されない時は、清拭や足浴を行なうよう努めている。	利用者の希望や体調をみてそれぞれに合わせた入浴を勧めている。重度化されても職員2人体制や補助具などを使いながら、安全面に注意しながら心やすらぐ入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方には日中の活動を促しているが、そうでない方には自由に日中も休んで頂いている。室温の管理を始め、寒いときには湯たんぽを提供するなど、気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は日誌に説明を記入している。個々の薬の情報をファイルに綴り、職員全員が把握できるようにしている。誤薬がないように、看護師、遅番職員、夜勤職員で3回チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意分野で力を発揮していただけるよう、女性の方には家事や裁縫、男性の方には力仕事などをお願いし、感謝の意を伝えている。また、外食やまつりなどのイベントに出かけ、気分転換出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分に応じて日常的に散歩に出かけている。また、お花見などの行事や外食などで外出する他、ご家族と一緒に出かけられるよう支援している。	近所の散歩は、お天気や体調を見て出かけ、気分転換を図っている。買い物の希望があればその都度お連れしている。また、遠出の際には、介護タクシーを利用し、季節の花見や外食なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持っておられる方もいるが、基本的にはご家族からお小遣いを預かり事務所で管理しており、買い物に出かけた時には欲しいものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしており、葉書や切手など、手紙が出せる支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく落ち着いた雰囲気の中で太陽の自然光が入るように配慮している。また、畳の間にはお仏壇があり、お客様がお仏飯や水を供え毎朝お参りしている。また、季節を感じていただけるように装飾したり、行事の写真やお客様の作品を展示するなど、みんなが楽しめる空間作りに取り組んでいる。	共有フロアには柔らかな外光が入り、穏やかな雰囲気と共に清潔感が感じられる。行事写真や季節の飾り物が一個所に展示されており、落ち着いて見ることができる。利用者は新聞や雑誌を読んだり塗り絵をしたりと、思い思いの場所で時間を過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角には和室があり、腰を掛けたり、昼寝をしたり、お仏壇にお参りをしたりできる。ソファに座りくつろいで会話を楽しんだり、テレビを見ることもできる。日向ぼっこが出来る場所も設けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、レクリエーションで制作した作品や、家で使っていた馴染みの家具、家族写真などが飾ってある。	ベッドからの立ち上がりを考えて、馴染みの家具や小物を配置し動きやすい空間を作っている。家族や知人らの訪問時には、テーブルや椅子を持ち込むなど、語らいやすい場所作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が「わかりにくい」のかを把握し、どうすれば「できること」「わかること」に変えられるかを全職員で話し合い、その都度、環境作りをしている。			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 はびねすグループホームいずみ
 作成日 平成29年10月18日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時、地域との連携が築かれていない	事業所の防災訓練に地域の方が参加して頂けるよう努める	運営推進会議を通して地域の方に事業所の防災訓練に参加して頂けるよう働きかける	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

はびねすグループホームいずみ